

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-151	24-316	慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
The Potential Effects of Red Wine and Its Components on Neurocognitive Disorders: A Narrative Review 赤ワインとその成分が神経認知障害に及ぼす可能性のある影響：ナラティブレビュー		
執筆者		
Virginia Boccardi <sup>1</sup> , Luca Tagliafico <sup>2,3</sup> , Angelica Persia <sup>2</sup> , Elena Page <sup>2,3</sup> , Silvia Ottaviani <sup>2,3</sup> , Anna Laura Cremonini <sup>3</sup> , Consuelo Borgarelli <sup>3</sup> , Livia Pisciotta <sup>2,3</sup> , Patrizia Mecocci <sup>1,4</sup> , Alessio Nencioni <sup>2,3</sup> , Fiammetta Monacelli <sup>2,3</sup>		
掲載誌		
Nutrients. 2024 Oct 10;16(20):3431. doi: 10.3390		
キーワード	PMID	
認知症、経変性疾患、ポリフェノール、赤ワイン、レスベラトロール	39458427	
要 旨		
<p><b>背景：</b>高齢化は、慢性変性疾患、特に神経認知障害の発生率および有病率の純増と関連している。したがって、こうした慢性疾患の負担を抑制する予防戦略の特定は極めて重要である。赤ワインとその成分は、神経認知症状に関連する神経学的病態に対する有益な効果について、蓄積されたエビデンスを有している。</p> <p><b>方法：</b>この背景に基づき、本総説は、前臨床および臨床設定における赤ワインとその成分が神経認知障害に及ぼす影響に関する最新のエビデンスを要約することを目的とする。</p> <p><b>結果：</b>主な知見は、認知機能低下の様々な前臨床モデルにおいて、赤ワインに含まれるワインポリフェノールが認知症に対して保護効果を示すことを強調している。現在のトランスレーショナル臨床エビデンスは、特にアルコール摂取が脳の健康に及ぼすリスクとベネフィットの比率を考慮すると、依然として不確実である。</p> <p><b>結論：</b>赤ワイン摂取に伴う総合的な健康リスクを考慮し、文献における現行ガイドラインと整合的に、軽度から中程度の赤ワイン摂取がこれらの疾患予防に有効な戦略であるとする証拠は不十分である。しかしながら、赤ワイン由来ポリフェノールに関する主に前臨床段階の知見は、この文脈において依然として重要な関心事である。</p>		